

## 徳川時代後期家族法関係史料(三)

―武州日光道中大沢町飯売下女年季奉公人関係文書―

高 木 侃

### 解 題

今回は武州日光道中大沢町（現・埼玉県越谷市）飯売下女年季奉公人請状関係の文書を紹介する。これはいわゆる飯盛女の身売りに関する文書で、身売りも家族関係に重要な影響を及ぼすものと考えて採録した。なお、大沢町は史料37に越谷宿の内とあるように、越谷宿から約一キロメートル北に位置する。

これらの文書は越谷から西へ約一キロメートルに位置する四丁野村荒井家旧蔵になる。荒井家はこの地の旧家で、徳川期から地主であり、四丁野村と越谷宿に所有した土地は、明治六年に当主荒井吉右衛門が作成した『地券一筆限帳』によれば、四丁野村に田壹町六反七畝二十四歩、畑屋敷八反五畝十六歩（そのうち屋敷地は壹反二十一畝十八

歩）、越谷宿に田貳町貳反八畝七歩、畑屋敷八反三畝七歩（そのうち屋敷地は貳反十一畝貳歩）であった。商業のほかに大沢町で旅籠屋を営むなど、その経営は手広いものであった。明治三十年には東武鉄道敷設のための土地買収、同四十三年には電燈会社設立にあたるなど地域経済発展に寄与したのである。

本文書は東京の古書店から二度にわたって購入したもので、一部は平成十三年七月に太田市立縁切寺満徳寺資料館<sup>1</sup>の所蔵になり、他は同年十二月その他の史料とあわせて筆者所蔵になる<sup>2</sup>。これをそれぞれ購入した動機は、史料4・7等々の飯売下女奉公人請状にみられる女性の爪印にわざわざ「右印」としたためられていることによる。

ところで、資料館では平成九年春の企画展で「三くだり半のはんこ」を取り上げ、そこで男性が押した爪印の横に

「但し左爪」と明記したもの、また東慶寺文書にみられた女性の爪印の下に「右」と書かれたものを展示した。つまり、爪印は、男は左、女は右の親指を用いることが慣例であった。以来これらの実物を入手したいとの思いがあり、入手にいたった。ここに翻刻して紹介するものである。

なお、飯売下女奉公人請状と頼一札などの関連文書の検討は後にゆずるが、史料1と2について、1の裏面の上から二・五センチメートルのところ、2の裏面の上から五センチメートルところをつまんで1に当てて、請人の印鑑が押捺されている。頼一札と奉公人請状が一体のものと考えられたことのみ指摘しておきたい。

- (1) 資料館の所在した尾島町は去る平成十七年三月二十八日、太田市と合併し、新太田市となり、これにともない資料館も太田市立を冠することになった。
- (2) 筆者所蔵になるものは目次中、関連文書の冒頭に掲げた請状の末尾に\*印を付した。
- (3) 爪印に関する男女の相違については、拙著『泣いて笑って三くだり半』教育出版、二〇〇一年、三八頁以下参照。また犯科人が「口書」のときも男は印形を持たない場合は爪印、女は爪印であった。そのとき爪印に用いるのは、男は左、女は右の親指であった(平松義郎『近世刑事訴訟法の研究』創文社、一九六〇年、九六五頁以下)。
- (4) 史料の引用方法は、拙著『縁切寺満徳寺の研究』成文

堂、一九九〇年、凡例によった。なお、行間の印は左の箇所に押捺されていることを意味する。

## 史料目次

1	文政三年八月	越後国蒲原郡順兵衛娘りて飯売下女奉公人請状*
2	文政三年八月	同 頼一札
3	文政三年八月	同 袋書
4	文政六年五月	日光道中幸手宿きよ飯売下女奉公人請状*
5	文政六年五月	同 入置申一札
6	文政六年五月	同 袋書
7	文政六年九月	武州埼玉郡喜佐井村その飯売下女奉公人請状
8	文政六年九月	同 入置申一札
9	文政六年九月	同 袋書
10	文政七年二月	日光道中幸手宿いか飯売下女奉公人請状*
11	文政七年二月	同 袋書
12	文政七年八月	浅草山川町常治郎店幸助妹ゆん飯売下女奉公人請状
13	文政七年八月	同 袋書
14	天保三年五月	日光道中杉戸宿せん飯売下女奉公人請状*

36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
元治元年五月	天保七年六月	天保七年正月	天保七年正月	天保七年正月	天保八年十月	天保八年十月	天保五年十二月	天保五年十二月	天保五年二月	天保五年二月	天保五年二月	天保五年二月	天保五年二月	天保四年十一月	天保四年十一月	天保四年十一月	天保三年六月	天保三年六月	天保三年五月	天保三年五月	天保三年五月
越後国新潟古神明町りか娘そや食売	同 頼一札	同 袋書	同 入置申一札	同 入置申一札	同 引高証文	同 借金証文	同 袋書	同 袋書	同 袋書	同 借金証文	同 入置申一札	同 頼一札	越後国蒲原郡そよ飯売下女奉公人請状	同 袋書	同 借用証文	坂本三丁目きん飯売下女奉公人請状	同 袋書	同 頼一札	日光道中小山宿かね飯売下女奉公人請状	同 袋書	給金残金支払につき一札

37 元治元年五月 同 頼一札 女年季奉公人請状\*

### 史料

1 文政三年八月 越後国蒲原郡順兵衛娘りて飯売下女奉公人請状

入置申飯売下女年季奉公人年季請状之事

一此りてと申女子、我等実娘ニ御座候所身上不如意二付、諸親類相談之上半途ニ暇申請間敷対談ヲ以、貴殿方之道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置申所実正ニ御座候、年季之儀は当辰ノ八月より来ル亥ノ九月迄中年丸七年（丸）壹ヶ月、給金拾九兩ニ相定、只今立会之上不殘（不殘）慥ニ請取申所実正也、然上は右女ニ付諸親類は不及申、外々より故障申者壹人も無御座候、万一六ヶ敷申者御座候ハ、我等共何方迄も罷出申訳ケ仕、貴殿え少も御苦勞相掛申間敷候、若此者取逃・欠落仕候ハ、当人早速尋出シ其品々相添相返シ可申候、行衛相知レ不申候ハ、人代成共給成共貴殿御望次第相済ニ可申候事

一御公儀様御法度之儀は不及申、貴殿御申附為相背申間敷候、四季施之儀は夏冬共貴殿御家并ニ可被下候事

一宗旨之儀は代々御法度之宗門ニては無御座候、則寺請状

は請人方え取置申候、御入用之節は何時成共早速差出し可申候、貴殿方にて相勤メ罷在候内は貴殿御宗門ニ御記し可給候、且此者長相煩致シ候歟、頓死病死致シ候歟、不慮ニ怪我過ニて相果候ハ、貴殿旦那寺ニ御葬被下、跡ニて為御知可被下候、其節一言之儀申間敷候、尚又奉公人御氣ニ入不申候ハ、右様之奉<sup>云</sup>ニ何方え成共御差出し可被下候、御左右次第早速罷越請狀印形可仕候、且奉公人身分ニ付何様成共勝手ケ間敷暇願等決て仕間敷候、為後日年季請狀入置申所仍て如件

越後国蒲原郡沼垂稻荷町

文政三辰年八月 実父人主 順 兵衛<sup>印</sup>

同国同郡同町

請人 六右衛門<sup>印</sup>

嘉 七

奉公人り て

大沢町

旅籠屋

太 源 次殿

## 2 文政三年八月 同 頼一札

### 相頼申一札之事

一我等実娘りてと申女子慥成者ニ御座候所、当御年貢ニ差支此度当宿え連參、旅籠屋太源次殿方え当辰ノ八月より来ル亥ノ九月迄中年九七年壹ヶ月ニ、給金拾九兩ニ相定メ、道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置申対談仕候所、人主請人共ニ遠国ニては頓死病死致候歟、不慮ニ怪我過ニて相果候節、間ニ合不申候得は当宿隣村ニて請人無之候てハ相談致候義難相成候ニ付、則外と申知人も無之、貴殿は国元定宿殊ニ前々より懇意ニ付、右請人ニ相立呉候様御頼申入候所、御不承知之段御尤ニ御座候得共、左候ては当惑至極難義仕候ニ付、達て相頼申候所、無抛御承知被下忝存候、尤請狀文面之通り給金不殘我等方え慥ニ請取申所実正ニ御座候、尤判料等壹錢も差出し不申候、然ル上は右女ニ付諸親類は不及申、外々より故障申者無御座候、万一彼は申者御座候ハ、我等引請何方迄も罷出申訳ケ仕、貴殿え御苦難少も相掛ケ申間敷候、尚又我等儀は遠国ニて諸事行届キ兼候間、年季中は貴殿方にて可然様御取計可被下候、若奉公人欠落等仕候ハ、貴殿方にて御取戻シ御主人方にて難召仕候ハ、貴殿人主にて外宿何方成共右牀之奉公ニ御住シ御主人方給金御請取被

## 3

文政三辰年八月 同 袋書

〔袋書表〕

りて 本証文 実父人主 順 兵衛 請人 六右衛門 嘉 七

〔袋書裏〕

越後国蒲原郡

文政三

沼垂稲荷町

辰ノ八月より

中年七年杓ヶ月

亥ノ九月迄

給金拾九両

下、御主人方御損毛無之様御済シ可被下候、右相頼申置候通少も違乱申間敷候、為後日仍て如件

越後国蒲原郡沼垂稲荷町

文政三辰年八月 実父人主 順 兵衛 印

同国同郡同町

請人 六右衛門 印

嘉 七

奉公人りて

大沢町

旅籠屋

太 源 次殿

4 文政六年五月 日光道中幸手宿きよ飯売下女奉公人請

状

飯売下女年季奉公人請状之事

一 此きよと申す女子、生国より能存慥成者ニ御座候ニ付、則我等人主請人ニ相立、貴殿方え道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置申処相違無御座候、尤年季之儀は当末ノ五月より来ル戌五月迄中年九三ヶ年季ニ、給金拾八両ニ相極メ、只今立合之上金子不残慥ニ請取申処実正也、然ル上は右女子ニ付実親諸親類は不申及、外々より故障申者老人も決て無御座候、万一六ツヶ敷申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度埒明、貴殿え少も御苦勞相掛申間敷候、若シ此者取逃・欠落等仕候ハ、当人早速尋出シ其品々は不申及、当人共相返シ可申候、若シ行衛相知れ不申候ハ、人代成共給金成共貴殿思召次第可仕候事

一 御公儀様御法度之儀は不申及、貴殿御申附為相背申間敷候、御仕着之儀は夏単物老ツ冬木綿わた入老ツ宛々可被下候事

一 宗旨は代々御法度之宗門ニては無御座候、尤寺請状は我等方え取置申候間御入用之節何時成共早速差出可申候間、年季中は貴殿宗門え御加え置可被下候、且此者長病相煩候歟、頓病死等致候歟、又は不慮之怪我過ニて相果

候ハ、御知らせ次第早速立合取片（附）可申候、其節宿居合不申候ハ、貴殿檀那寺え御取置可被下候、若シ又奉公人御氣ニ入不申候ハ、御仲間之内え何方え成共住替ニ御差出シ可被下候、御左右次第早速請狀印形無異儀可仕候、尚又女子身分ニ付何様之儀御座候共、我等方より勝手ケ間敷御暇願等は堅仕間鋪候、為後日之飯売下女年季請狀仍て如件

日光道中幸手箱

文政六未年五月

人主 五郎

八（印）

同断と

よ（右印）

奉公人き

よ（右印）

請人

大沢町旅籠屋

嘉 七殿

# 5 文政六年五月 同 入置申一札

入置申頼証文之事

一此きよと申女子、我等人主にて御同宿旅籠屋嘉七殿方え当未ノ五月より来ル戌五月迄中丸三年季ニ、給金拾八両ニ相極メ、道中飯売下女奉公ニ差置候相談及候処、請人無之候ニ付、貴殿ハ前々より親類同様ニ心易ニ付、請人ニ相立被下候様申入候処、不承知之段御尤ニ御座候得共、

左候ては外ニ知人も無之当惑仕候ニ付、達て相頼候処、無惣御承知被下忝存候、尤請狀之上金子不残慥ニ請取申処実正也、然ル上は右女子ニ付実親諸親類は不申及、外々より故障申者壹人も決て無御座候、万一彼是申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度埒明、貴殿え少も御苦勞相掛申間敷候、且又我等手遠之儀も御座候得は、年中は宜敷貴殿方にて御取計（附）置可被下候、為後日之頼証文入置申処仍て如件

日光道中幸手箱

文政六未年五月

頼人 五郎

八（印）

同断と

よ（右印）

奉公人き

よ（右印）

# 6 文政六年五月 同 袋書

（袋書表）

「文政六未年五月

人主 五郎 八

奉公人 請狀

と よ

（袋書裏）

「千客 万来

奉公人き よ

大人 叶」

7 文政六年九月 武州埼玉郡喜佐井村その飯売下女奉公人請状

飯売下女年季奉公人請状之事

一此そのと申す女子、我等実娘ニ御座候処、身上不如意ニ付、諸親類相談之上、則我等人主請人ニ相立、貴殿方え道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置申処相違無御座候、尤年季之儀は当未九月より亥十二月迄中年丸四年三ヶ月二、給金拾九兩ニ相極メ、只今立合之上金子不殘慥ニ請取申処実正也、然ル上は右女子ニ付諸親類ハ不申及、外々より故障申者耄人も決て無御座候、万一六ツケ敷申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度埒明、貴殿少も御苦労相掛申間敷候、若シ此者取逃・欠落等仕候ハ、当人早速早速尋出シ、其品々は不申及、当人共貴殿え相返シ可申候、若シ行衛相知不申候ハ、人代成共給金成共貴殿思召次第可仕候事

一御公儀様御法度之儀は不申及、貴殿御申附為相背申間鋪候、御仕着之儀は夏冬共ニ御家并可被下候事

一宗旨は代々御法度之宗門ニては決て無御座候、尤寺請状は我等方え取置候間御入用之節は何時成共早速差出可申候間、年季中は貴殿宗門え御記し置可被下候、且此者長病相煩候歟、頓病死等仕候歟、又は不慮之怪我過ニて相

果候ハ、御知らせ次第早速立合取片附可申候、其節宿所ニ居合不申候ハ、貴殿檀那寺え御取置可被下候、跡ニて法名を以御届ケ被下候共、其節一言之儀決て申間敷候、若シ奉公人御氣ニ入不申候ハ、御仲間之内何方え成共住替ニ御差出シ可被下候、御左右次第無異儀立合請状書替印形可仕候、且我等住所替仕候ハ、是又早速貴殿え相届ケ可申候、尚又女子身分ニ付何様之儀御座候共、我等方より勝手ニ御暇願等堅仕間鋪候、前書之通り少も相違無御座候、為後日之奉公人年季請状仍て如件

武州埼玉郡喜佐井村

文政六未年九月

実母

人主

に(右印)

同村親類

受人 太郎右衛門 奉公人そ の(右印)

口入人

大沢町

旅籠屋

嘉 七殿

8 文政六年九月 同 入置申一札

入置申別紙一札之事

一此そのと申女子、我等人主請人ニ相立、請狀文面之通り  
 年季給金相定、道中飯売下女奉公ニ差置申候処相違無御  
 座候、右女子万一不奉公致候歟、又は御氣ニ入不申候節  
 は、我等手遠之儀ニも御座候へは、貴殿方ニて御仲間内  
 何方え成共住替ニ御差出し被下、先方主人方より右給金  
 御損毛無之候様御請取可被下候、尚又御左右次第無異儀  
 罷越し立合、請狀書替印形可仕候処実正也、万一其節我  
 等方ニて違乱申候ハ、此書付を以貴殿如何様御申立御  
 掛被成候共、一言之儀決て中間敷候、為後日之別紙一札  
 入置申処仍て如件

文政六未年九月

武州埼玉郡喜佐井村

実母

人主 く に

同村親類

請人 太郎右衛門<sup>⑨</sup>

その

旅籠屋

嘉 七殿

## 9 文政六年九月 同 袋書

「<sup>〔袋書表〕</sup>文政六未年九月吉日

喜佐井村

実母 く に

年季奉公人請狀

親類

太郎右衛門

その

「<sup>〔袋書裏〕</sup>千客 万来

大入叶

当未九月より来ル亥十二月迄

中年丸四年三ヶ月給金十七兩也<sup>〔袋書裏〕</sup>

## 10 文政七年二月 日光道中幸手宿いか飯売下女奉公人請狀

飯売下女年季奉公人請狀之事

一此いかと申す女子、生国より能存慥成者ニ御座候ニ付、  
 則我等人主請人ニ相立<sup>⑩</sup>、貴殿方え道中旅籠屋飯売下女奉  
 公ニ差置申処相違無御座候、尤年季之儀は当申二月より  
 来ル戌十二月迄中年丸二年拾ヶ月ニ、給金貳拾四兩ニ相  
 定、只今立合之上金子不残慥ニ請取申処実正也、然ル上  
 は右女子ニ付実親諸親類は不申及、外々より故障申者老  
 人も決て無御座候、万一六ツケ敷申者御座候ハ、我等  
 何方迄も罷出急度埒明、貴殿え少も御苦勞相掛申間鋪候、  
 若シ此者取逃・欠落等仕候ハ、当人早速尋出シ其品々  
 は不申及、当人共相返シ可申候、若シ行衛相知れ不申候  
 ハ、人代成共給金成共貴殿思召次第可仕候事  
 一御公儀様御法度之儀は不申及、貴殿御申附為相背申間敷



候、御仕着之儀は御家并ニ可被下候事

一宗旨は代々御法度之宗門にては無御座候、尤寺請状は我等方え取置申候間御入用之節は何時成共早速差出可申候間、年季中は貴殿宗門へ御加へ置可被下候、且此者長病相煩候歟、頓病死等仕候歟、又は怪我過にて相果候ハ、御知らせ次第早速立合取片附可申候、若シ其節宿ニ居合不申候ハ、請人立合之上貴殿檀那寺へ御取置可被下候、跡にて法名を以御届ケ被下候共、其節一言之儀決て申間敷候、若シ又奉公人御氣ニ入不申候ハ、御仲間之内え何方え成共住替ニ御差出シ可被下候、御左右次第早速立合請状書替印形可仕候、且女子身分ニ付何様之儀出来仕候共、我等方より勝手ケ間敷御暇御願等決て仕間敷候、為後日之飯売下女奉公人年季請状依て如件

日光道中幸手宿

文政七申年

旅籠屋

二月

人主 ふ

ん(承印)  
右印

同断

請人 五郎

八(承印)

奉公人 い

か(右印)

旅籠屋

嘉

七殿

11 文政七年二月 同 袋書

「(袋書) 文政七申年

幸手宿新丸屋

人主 ふ

奉公人 いか請状

請人 五郎 八

いか改當時

奉公人 た

つ

「(袋書) 二月吉日  
千客 万来

大入 叶

12 文政七年八月 浅草山川町常治郎店幸助妹ゆん飯売下

女奉公人請状

飯売下女奉公人請状之事

一此ゆんと申女子我等実妹にて儲成者ニ御座候処、身上不如意ニ付当人得心にて、我等人主請人ニ相立実伯母爪印差入、貴殿方え道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差出申処実正也、尤年季之儀は当申ノ八月十九日より来ル亥二月十九日迄中年式年六ヶ月ニ、給金貳拾三兩貳分ニ相極メ、一同立会本紙証文之上金子不残儲ニ請取申候、然ル上は右女子ニ付横合より出入六ヶ敷申者決て無御座候、若又何角彼是申者万一有之候ハ、我等何方迄も罷出引請埒明、

貴殿え御苦勞相掛ケ申間敷候、右之通り相極奉公ニ差出候上は何様之儀有之候共我等方より堅暇相願申間敷候

一御公儀様御法度之義は不及申、御家風急度相守可申候事万一起逃・欠落仕候ハ、尋出相渡し極通り奉公為相勤可申候、若行衛相知不申候ハ、給金成とも人代成共貴殿思召通り埒明可申候、其節取逃之品有之候ハ、是又相改メ弁え可申候、貴殿方ニ罷在候年季之内ニ相性悪敷御氣二人不申候ハ、旅籠屋仲間之内え濟替ニ被差出給金御受取可被成候、其節罷出受判ニ相立可申候、猶又何様之不慮之通ニて怪我過ニて相果候共相互申分無御座候、其節御知らせ次第立会取片付可申候得共、我々御当地ニ罷在候間早速問ニ合不申候ハ、貴殿菩提所え御取置被成、法名を以御知らセ被下候共、一言之申分無御座候、尤我等他国致候歟、住所替等致候節は貴殿方之相届可申候、長病相煩御引渡し被成候節ハ無異儀引取可申候事

一宗旨之儀は代々天代宗ニて武州西葛飾領須崎村長命寺旦那ニ紛無御座候、宗門御改之節ハ寺手形差出可申候、為後日人置申飯売下女年季奉公人請狀仍て如件

谷中感応寺門前

浅草山川町常治郎店

文政七申年八月十九日

受人 幸

助 印

武州西葛西領須崎村

百姓

実兄人主 幸

実伯母 ひ

奉公人 ゆ

助 印

て 右印

ん 右印

大沢町

旅籠屋

嘉

七殿

13 文政七年八月 同 袋書

〔袋書本〕 文政七申年八月十九日より

来亥二月十九日迄中年

丸貳年六ヶ月給金貳拾三兩

貳分

谷中感応寺門前

浅草山川町常治郎店

受人 幸 助

武州西葛西領須崎村

人主 幸 助

実伯母 ひ

奉公人 ゆ 人

14 天保三年五月 日光道中杉戸宿せん飯売下女奉公人請

狀

食売下女奉公人年季請狀之事

一此セんと申女子生国能存慥成者ニ御座候二付、我等人主

請人相立、貴殿方え道中旅籠屋食下売女奉公ニ差出し申  
 処相違無御座候、年季之儀は当辰ノ五月九日より来ル午  
 五月九日迄中年丸式年ニ、給金拾四兩ニ相定メ、只今証  
 文之御給金不殘<sup>⑩</sup>ニ受取申候、四季施之儀は夏冬共御家  
 并ニ可被下候事

一 御公儀様御法度之儀は不及申、貴殿御申附何ニても相背  
 申間敷候、万一取逃・欠落仕候ハ、其品々相改相返し  
 可申候、若貴殿御氣ニ入不申候ハ、人代成共給金成共  
 貴殿御差図次第二取計可申候、右女子ニ付諸親類ハ不及  
 申ニ外々より故障申者決て壱人も無御座候、若横合より  
 六ツ敷申者御座候ハ、我等何方迄も罷出貴殿え少しも  
 御苦勞相掛申間敷候、万一不慮之頓病死怪我過ニて相果  
 候節は、御知らせ次第早々罷越、立会之上取片付可申候、  
 右対談年季中御暇願等申請間敷候

一 宗旨之儀は代々御法度之宗門ニては無御座候、寺請状我  
 等方ニ取置申候、貴殿御入用之節は何時成共差出可申候、  
 為後日道中旅籠屋食売下女年季請狀入置申所依如件

日光道中杉戸宿

天保三辰年五月

旅籠屋

人主 三四郎<sup>⑩</sup>

同宿

請人 太 七<sup>⑩</sup>  
 奉公人せ ん(右印)

大沢町

旅籠屋

茂左衛門殿

15 天保三年五月 同 給金殘金支払につき一札

一札之事

一 此セんと申女子我等方え道中旅籠屋食売下女奉公ニ相  
 抱、年季之儀は当辰ノ五月九日より来ル午五月九日迄、  
 給金拾四兩ニ相定メ、右給金之内金四兩<sup>⑩</sup>ニ相渡し、殘  
 金之儀は当六月五日迄ニは急度相済可申候、万一相滞申  
 候ハ、請人引受急度相済可申候、為後日一札入置申処  
 仍て如件

大沢町

天保三辰年五月 旅籠屋

茂左衛門<sup>⑩</sup>

同町

受人 嘉兵衛<sup>⑩</sup>

杉戸宿

旅籠屋

三四郎殿

## 16 天保三年五月 同 袋書

「<sup>後書</sup>天保三辰年五月九日 杉戸宿

旅籠屋

人主 三 四 郎

証 文 壺通

同町

受人 太 七

奉公人 七 人

## 17 天保三年六月 日光道中小山宿かね飯売下女奉公人請

状

食売女奉公人請状之事

一 此かねと申女慥成者ニ御座候ニ付、諸親類一同相談之上我等人主請人ニ相立、当辰ノ六月二日より申ノ六月朔日迄中年丸三年十一ヶ月ニ、給金三拾兩ニ相定、貴殿方之道中旅籠屋食売女奉公ニ差出、只今給金立会之上不殘慥ニ請取申所実正也、然上ハ右女子ニ付諸親類ハ不及申ニ外々より故障申者決て壺人も無御座候、<sup>誠</sup>是申もの御座候ハ、我等何方迄も罷出申訳ケ仕、貴殿え少御苦勞相掛申間敷候、万一此もの取逃・欠落仕候ハ、当人早速

尋出、其品々相改相并可申候、若行衛不申候ハ、人代成共給金成とも貴殿御思召次第可仕候事

一 御 公儀様御法度之儀は不及申ニ、貴殿御申附為相背申間敷候、御仕着施之儀夏冬ともニ御家並ニ可被下候事

一 宗旨之儀は代々御法度之宗門ニては無御座候、尤寺請状我等方え取置候間、御入用之節何時成共早速差出シ可申候、且年季中ハ貴殿之御宗門ニ御記し置可被下候、且又此もの長病相煩候敷、頓病死等仕候敷、又ハ不慮ニ怪我過等ニて相果候ハ、御沙汰次第早速罷越、我等方え引取貴殿え少も御苦勞相掛申間敷候、若其節我等他出仕間ニ合不申候ハ、請人立会之上貴殿旦那寺え御取置被下、跡ニて法名を以御知らセ被下候共、其節一言之義決て申間敷候、若又奉公人御氣ニ入不申候ハ、御仲間内え住替差出可被下候、御右左次第早速罷越請状書替印形差出可申候、猶亦女子身分ニ付何様之儀御座候共、我等勝手ニ御暇願等堅仕間敷候、為後日年季奉公人請状入置申所如件

日光道中小山宿

天保三辰年六月二日

人主 伝 兵 衛

代 清 三 郎

大沢町

請人 伊 八

間久里村

大沢町

旅籠屋

茂左衛門殿

口入 佐 太 郎<sup>㊦</sup>  
奉公人か ね<sup>(爪印)</sup>

18 天保三年六月 同 頼一札

入置申頼一札之事

一此かねと申女慥成者ニ御座候ニ付、諸親類一同相談之上  
則我等入主請人ニ相立、当辰ノ六月二日より来申ノ六月  
二日迄中年丸三年十一ヶ月ニ、給金三拾両ニ相定、当宿  
旅籠屋茂左衛門殿方え道中旅籠屋食売女奉公ニ差置申候  
対談仕候処、当宿ニ請人無之候てハ難召仕候ニ付、貴殿  
儀は旧来懇意之間柄ヲ以請人ニ相立被下候様相頼候処、  
御不承知之段御尤ニ存候得共、外ニ可便方も無之当惑仕  
候ニ付、達て御頼申候ハ、無抛御承知被下忝存候、尤  
請状立会之上給金不殘慥ニ請取申所実正也、然上ハ右女  
子ニ付諸親類不及申ニ外々より故障申者決て忝人も無御  
座候、若彼是申もの御座候ハ、我等引請何方迄も罷出  
申訳仕埒明、貴殿え少も御苦勞相懸ケ申間敷候、尚亦我  
等手遠之儀ニも候得は行届不申候間、万端貴殿方ニて女  
子身分之儀ハ何事ニ不寄御引請御取計可被下候、其節我

等方ニて一言之違儀決て申間敷候、為後日頼一札入置申  
所仍て如件

天保三辰年六月二日

小山宿

伝之助代

清 三

奉公人か ね<sup>(爪印)</sup>

大沢町

旅籠屋

伊

八殿

19 天保三年六月 同 袋書

「袋書衣

本 証 壺 通

小山宿

伝兵衛代

頼 壺 通

入主 清 三 郎  
受人 伊 八  
口入 佐 太 郎<sup>一</sup>

20 天保四年十一月 坂本三丁目きん飯売下女奉公人請状

飯売下女奉公人年季請状之事

一私儀身上不如意ニ付諸親類相談之上此度私実娘きんと申  
女、則我等入主請人ニ相立当巳ノ十一月廿二日より来ル

戌ノ十一月廿二日迄九五ヶ年ニ、給金拾五兩ニ相定<sup>㉔</sup>、貴殿え道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置、加判之者立会給金不殘髓ニ受取申<sup>㉕</sup>処実正也、尤四季施之義は夏單物沓ツ冬裕沓ツ可被下候、此女子ニ付諸親類は不及申、脇より故障申者決て無御座候、若シ彼是六ツヶ敷申者有之候ハ、我等何方迄も罷出申訳ケ仕、貴殿え少も御苦勞相掛ケ申間敷、万一女子取逃・欠落仕候ハ、其品々不及申当人早速尋出シ相戻シ可申候、若シ行衛相知不申候ハ、人代成共給金成共貴殿御勝手次第埒明相済可申候事

一 御公儀様御法度之義は不及申、貴殿御申附相背為仕間敷候、且此女子年季中之内我等勝手ニ暇堅申請間敷事

一 宗旨之儀は代々日蓮宗ニて寺は谷中随隣寺旦那二紛無御座候、寺請状受人方え取置候間、御入用之節ハ何時成共差出シ可申候、尤奉公相勤罷在候内は貴殿之御宗門ニ御記可被下候、若又年季之内不奉公は不及申、御氣二入不申候ハ、外旅籠屋え住替奉公ニ被差出、給金御損毛無之様御取計可被下候、其節御沙汰次第罷越無異儀印形可仕候、万一此者不慮之怪我過ニて相果候敷、又は頓病死等仕候ハ、我等遠方ニ御座候間、貴殿旦那寺え御取置、跡ヨリ法名ヲ以為御知可被下候、其節一言之義決て申間敷候、尚又我等所替仕候ハ、早速此段相届ケ可申候、為後日飯売下女奉公人年季請状入置申処仍て如件

坂本三丁目

天保四巳年十一月 家主幸太郎店

平兵衛<sup>㉔</sup>

下谷町式丁目

家主次郎兵衛店

富五郎<sup>㉔</sup>

奉公人

きん<sup>㉕</sup> (右印)

大沢町

茂左衛門殿

21 天保四年十一月 同 借用証文

一 金 沓<sup>㉕</sup> 兩也 借用申金子之事

右はきんと申女子我等請人ニて貴殿え道中旅籠屋飯売下女奉公ニ差置、右之金子髓ニ借用申<sup>㉕</sup>処相違無御座候、返済之義は、右女子首尾能奉公相勤、年季明キ之節無相違返済可申候、依之借用一札入置申処仍て如件

下谷町<sup>㉕</sup> 丁目

天保四巳年

次郎兵衛店

十一月

借用人 富五郎<sup>㉔</sup>

下谷元黒門町

新兵衛店

大沢町

茂左衛門殿

受 人 清 次 郎<sup>④</sup>

22 天保四年十一月 同 袋書

〔袋書表〕  
天保四巳年十一月廿二日 坂本町三丁目

実父 平兵衛

下谷町式丁目

受人 富五郎

奉公人

きん事

や す

23 天保五年二月 越後国蒲原郡そよ飯売下女奉公人請状

食売女年季奉公人請状之事

一此そよと申女子生国より能存儲成者ニ御座候ニ付、則我等人主請人ニ相立諸親類相談当人得心之上、譬何様之儀有之候共、半途ニ暇申請間敷対談ヲ以、当午ノ二月より来ル子七月迄丸六年六ヶ月ニ、給金廿四兩式分相極メ、貴殿え道中旅籠屋食売下女奉公ニ差出し申处実正也、尤

双方立会之上請状仕、給金不殘我等方え儲ニ受取申所相違無御座候、然上は此女子ニ付諸親類は不及申、横合より故障申もの老人も無御座候、若彼是申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度引請埒明、貴殿え少しも御苦勞相掛中間敷候、且此女子不奉公仕候歟、御氣ニ入不申候節は早々給金相立引取可申候、其節金子調達兼候ハ、貴殿方より何方え成共住替ニ御差出し、先方主人方より給金御受取可被下候、其節何方迄も罷越受状書替印形無異儀差入相済可申候事

一御 公儀様御法度之儀は不及申、貴殿被申渡之趣堅相守可申候、自然此女子取逃・欠落仕候ハ、品々相改メ弁之、当人早速尋出し相返し可申候、万一行衛相知ル不申候ハ、給金成共人代成共貴殿御差図次第早々取計可申候、若此者怪我過不慮成儀ニて相果候歟、頓病死等有之候ハ、相互ニ無是非為御知次第早々立会取片付可致候、又は其節一同居合不申候ハ、貴殿旦那寺え御法通り御取置、跡ニて御通達被下候共、一言之申分無御座候、且我等住所替印形相改候ハ、御通達可申上候、御仕着セ之儀ハ夏冬両度ニ可被下候事

一宗旨之儀は代々御法度之宗門ニては無御座候、則寺請状受人方ニ取置申候、御入用之節ハ差出し可申候、為後日食売女年季請状入置申处仍て如件

越後国蒲原郡横越組

天保五年二月晦日

中野山新田

実父 兵五郎<sup>印</sup>

武州日光道中大沢町

受人 權太郎<sup>印</sup>奉公人そよ<sup>印</sup> (右印)

(宛名無し)

## 24 天保五年二月 同 頼一札

相頼申一札之事

一我等儀年々困窮身之上不如意ニ付、諸親類相談之上実娘  
 そよ儀御当町え連参り道中旅籠屋食売下女奉公ニ差出申  
 処相違無御座候、尤年季之儀は当年二月より来ル子七月  
 迄丸六年六ヶ月ニ、給金廿四両貳分ニ相極メ、大沢町旅  
 籠屋茂左衛門殿方え奉公ニ差置申処、請人無之候ては奉  
 公相成兼候ニ付、貴殿儀ハ旧来懇意之好身故、請人ニ相  
 立呉候様達て相頼候処、無抛御承知被下忝存候、然上ハ  
 年季中之儀ハ、不奉公は不及申、又は御氣ニ入不申候て  
 外旅籠屋え住替奉公ニ被差出候節ハ、主人方御損毛無之  
 給金相済候様、貴殿方ニて何様ニも御取計可被下候、且  
 又女子身分之儀年季中之儀ハ如何様之儀御座候共、万端  
 貴殿方ニて御引請御取計被下候様頼入候、依て一同頼一  
 札入置申処仍て如件

越後国蒲原郡横越組

天保五年二月晦日

中野山新田

実父 兵五郎<sup>印</sup>奉公人そよ<sup>印</sup> (右印)

大沢町

權太郎殿

## 25 天保五年二月 同 入置申一札

入置申一札之事

一此そよと申女子去ル午二月中我等人主ニ相立請状之通り  
 年季給金相極メ、貴殿え道中旅籠屋飯売女奉公ニ差置候  
 処、右そよ義度々不奉公致候ニ付難召仕、給金は勿論借  
 金共不残相立、女子引取候様被成御申承知仕候、然ル処  
 女子被申候ニは只今外々え住替奉公ニ差被出候ては難義  
 至極ニ御座候由申之、今更後悔仕、此後奉公大切ニ相勤  
 可申間、何分御託被下候様達て我等え相歎キ候故、貴殿  
 え右之段御託申入候処、格別之御勘弁ヲ以無抛御召仕被  
 下候段我等迄忝存候、然上は重て右躰之不始末致候歎、  
 是迄之様勝手俣ニ勤方いたし思召相叶不申候ハ、何方  
 え成共住替奉公ニ御差出し被成共、当人は勿論我等迄決  
 て違背仕間敷候、尚又其節給金は勿論借金共濟方金ニ右  
 年ニて引足不申候ハ、当人身分年季相増候て、貴殿方



え御損毛無之様急度相済可申候、為後日詫一札入置申処  
如件

越後国蒲原郡

天保六未年

閏七月

中野山新田横越組

実父 兵 五 郎<sup>印</sup>

奉公人そ よ<sup>印</sup>(右印)

大沢町

旅籠屋

茂左衛門殿

26 天保五年二月 同 借金証文

借用申金子之事

一金 貳<sup>印</sup> 両也

右金子之儀は我等実娘そよ先達て貴殿方え年季給金相極  
メ、道中旅籠屋飯売女奉公ニ差出し候処相違無御座候、  
然ル処右そよ儀度々不奉公致、入用出来候ニ付、貴殿え  
御無心申入書面之金子儘ニ借用申<sup>印</sup>処実正也、返済之義は  
女子年季明キ之節急度返済可申候、若返済相兼候ハ、  
本紙給金割合ヲ以為相勤可申候、已来女子不奉公いたし  
外々え住替ニ被差出候節は、給金同様済方可仕候、為念  
借用一札入置申処如件

越後国蒲原郡

天保六未年

閏七月

中野山新田横越組

実父 兵 五 郎<sup>印</sup>

奉公人そ よ<sup>印</sup>(右印)

大沢町

旅籠屋

茂左衛門殿

27 天保五年二月 同 袋書

「天保五年二月より  
来ル子七月迄丸六年六月二  
給金廿四両貳分」

越後国蒲原郡横越組

中野山新田

実父 兵 五 郎

大沢町

受人 権 太 郎

奉公人そ よ<sup>印</sup>

頼添

「大 叶」  
「大 叶」

28 天保五年十二月 きわ飯売下女奉公人請状

食売女年季奉公人請状之事

一此きわと申女子儘成者ニ御座候ニ付、我等人主請人ニ相  
立、諸親類相談当人篤心之上、譬何様之儀有之候共半途

二暇申受間敷対談ヲ以、当午ノ十二月より来ル亥ノ十二月迄中年<sup>④</sup>四年十一ヶ月、給金貳拾<sup>⑤</sup>五兩ニ相極メ、貴殿方へ道中旅籠屋食売女奉公ニ差遣申処実正也、尤双方立会受状仕、給金不殘我等方え儲ニ受取申候、然ル上は此女ニ付諸親類は不及申、横合より出入故障申もの忝人も無御座候、若彼は申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度引請埒明ケ貴殿え少も御苦勞相掛ケ申間敷候、且此もの不奉公仕候歟、御氣ニ入不申候節は早々給金相立引取可申候、其節金子調達相成兼候ハ、貴殿方より何方え成共奉公住替被差出、先方主人方より給金受取被下候様致度候、其節何方迄も罷越し受状書替印形無異儀差入相済可申候事

一御 公儀様御法度之儀は不及申、貴殿被申渡之趣堅為相守可申候、自然此女取逃・欠落仕候ハ、早々相改弁之、当人早速尋出し相返し可申候、且又此もの行衛相知レ不申候ハ、給金成共人代成共貴殿御差図次第早々取計可申候、此者怪我過不慮成義ニて相果候歟、頓病死等有之候ハ、相互ニ無是非為御知次第早速立会取片付可仕候、將其節一同居合不申候ハ、貴殿旦那寺え御法通り御取置、跡より御通達被下候共、一言申分無御座候、且四季施之義は夏冬兩度可被下候事

一宗旨之儀は御法度之宗門ニては代々無之候、則寺受状我等方え取置申候、御入用之節は差出し可申候、為後日食

売女年季受状入置申処仍て如件

大沢町旅籠屋

天保五年十二月

人主 茂

助<sup>⑥</sup>

同町

受人 喜三

奉公人き

郎<sup>⑦</sup>「貼札  
わ(右印

貼札

当未五月中喜三郎死去致候二付  
天保六未八月我等継印致候

受人 嘉

七<sup>⑧</sup>

29 天保五年十二月 同 袋書

「<sup>袋書付</sup>当午ノ十二月より来ル亥年 大沢町旅籠屋

十二月迄中年四年十一ヶ月

人主 茂 助

同町

給金貳拾五兩

受人 喜三郎

きわ事

奉公人ふ

く

「<sup>袋書付</sup>未正月二日認め

大 叶

30 天保八年十月 同 借金証文

## 入置申金子ノ事

一金廿二両銀式匁也 但シ午年十二月より酉八月迄

右は前書之通儘ニ借用申処実正也、返済之義は年季之内返済可申候、万一返済相成兼候ハ、未年季ニて相勤可申候、依之入置申一札如件

天保八年酉十月

吉右衛門殿

## 31 天保八年十月 同 引高証文

〔<sup>源氏</sup>天保八酉十月改引高証文

覚

奉公人ふ く

一金拾貳両也

給金

内金壹両貳分

身付

十一月二日

金五両貳分

内金

十一月極メ

金五両也

残金

金壹分

判人

借用人 ふ

く (右印<sup>爪印</sup>)

大沢町

証人 四郎兵衛印

ときたや 茂八

## 32 天保七年正月 金杉耆丁目平兵衛娘さん飯売下女奉公

人請状

食売女年季奉公人請状之事

一此さんと申女子我等実娘ニて儘成者ニ御座候ニ付、人主請人ニ相立親類当人篤心之上、譬何様之儀有之候共、半途ニ暇申請間敷対談ヲ以、当申正月廿日より来ル辰六月廿日迄丸<sup>丸</sup>年六ヶ月、給金參拾貳両ニ相極<sup>極</sup>メ、貴殿方之道中旅籠屋食売女奉公ニ差置申処実正也、尤双方立会受状之上、給金不殘儘ニ受取申処相違無御座候、然上は此女子ニ付諸親類は不及申横合より故障申者老人も無御座候、若彼是申者御座候ハ、我等何方迄も罷出急度引受埒明、貴殿之少も御苦勞相掛申間敷候、且此者不奉公仕候歟、御氣<sup>御氣</sup>二人不申候節は早々給金相立女子引取可申候、其節給金調兼候ハ、貴殿方ニて何方え成共住替奉公ニ差出し、先方主人より給金御受取可被下候、其節何方迄も罷越受状印形差入相済可申候事

一御公儀様御法度之儀は不及申、被申渡之趣堅為相守可申候、自然此女子取逃・欠落仕候ハ、品々相改メ弁之、当人早速尋出し相返し可申候、万一行衛相知レ不申候ハ、給金成共人代成共貴殿御差図次第早々取計可申候、

此者怪我過不慮成儀ニて相果候歟、頓病死等有之候て、相互ニ無是非為相知次第早々立会取片付可致候、其節居合不申候ハ、貴殿旦那寺之御法通り御取置可被下候、跡ニて一言之儀申間敷候

一宗旨之儀は代々日蓮宗、寺は谷中隨隣寺旦那那ニ紛無御座候、寺受取我等方ニ取置可申候、御入用之節ハ何時成共差出し可申候、為後日食売女年季受状入置申処如件

金杉壹丁目

天保七申年正月

家主忠藏店

人主実父 平 兵衛<sup>印</sup>

大沢町

受人伝 吉

奉公人き ん<sup>（爪印）</sup>（右）

（宛名無し）

33 天保七年正月 同 入置申一札

入置申頼一札之事

一此きんと申女子我等実娘ニ御座候処、身上不如意ニ付、親類相談之上此度当町旅籠屋茂左衛門殿方え当申正月より寅六月迄丸六年五ヶ月ニ、給金貳拾三兩貳分貳朱ニ相極メ、道中旅籠屋食売女奉公ニ差出申対談仕候処、受人無之候てハ難召仕、貴殿儀は前々より懇意之間柄故受人

ニ相立呉候様達て相頼候処、無抛御承知被下忝存候、則受状立会之上給金不殘儘ニ受取申処実正也、然上ハ右女子ニ付諸親類不及申横合より故障申者決て無御座候、若彼是申者有之候ハ、我等何方迄も罷出申開仕、貴殿え少も御苦勞相掛申間敷候、且女子身分ニ付万事貴殿方ニて引受、御世話偏ニ頼入候、依之頼一札入置申処如件

坂本三丁目

天保七申年正月

幸太郎店

きん実父 平 兵衛<sup>印</sup>

大沢町

伝 吉殿

34 天保七年正月 同 袋書

〔天保七申年正月〕

坂本三丁目

幸太郎店

きん実父 平 兵衛

本 紙 壹通

大沢町

受人 伝 吉

きん事

給金貳拾三兩貳分貳朱

奉公人や

す

〔天保七〕 穠 万 歳

## 大 叶 一

35 天保七年六月 同 頼一札

## 相頼申一札之事

一我等実娘やすと申女子慥成者ニ御座候ニ付、先達て貴殿方元年季給金取極メ、道中旅籠屋食売下女奉公ニ差置、尤請状之上金子不残慥ニ受取申処実正ニ御座候、然ル処此度女子御氣ニ入不申候ニ付難召遣段御沙汰ニ被及候得は困窮之私共故右給金調達出来兼候間、貴殿方より何方え成共住替奉公ニ御差出し被成御損毛無之様年季給金御取極被下、御沙汰次第早速立会人主印形無異儀仕、先方御主人より給金ヲ請取返金可仕候、且又其節諸入用等ニ相掛り候共私方より差出可申候、為念頼一札入置申処仍て如件

下谷坂本三丁目

天保七申年六月

幸太郎店

実父 平 兵 衛<sup>印</sup>

大沢町

証人 伝

奉公人ヤ

吉<sup>印</sup> 寸

大沢町

旅籠屋

## 茂左衛門殿

36 元治元年五月 越後国新潟古神明町りか娘そや食売女  
年季奉公人請状

## 食売女年季奉公人請状之事

一此そやと申女子、当子拾七歳罷成、我等実娘慥成者ニ御座候所、不如意ニ付御上納御役銀ニ差詰、無抛諸親類一同相談仕当人篤心之上、譬何ケ様之義有之候共半途ニ御暇等申請間敷以対談、当子ノ六月より来ル未ノ五月晦日迄中年丸七ケ年ニ、給金四拾両ニ相定メ、只今一同立会請状之上、右給金我等方え不残慥ニ請取、貴殿之道中旅籠屋飯売女奉公ニ差出申処実正也、然ル上は右女子ニ付横合故障等申者忝人ニても決て無御座候、若彼是申者御座候ハ、我等共引請埒明貴殿え聊御苦難相掛ケ申間敷候、且女子御氣ニ入不申候歟、亦は如何様之不奉公相勤候ハ、御給金相立女子引取可申候、若其節給金調達兼候ハ、貴殿方より何方え成共奉公住替ニ被差出、先方御主人より何レも給金御損毛無之様御請取可被下候、且女子ニ付奉公中無抛義ニて入用等出来筋も有之候節ハ御用立置可被下候、若左も御座候節、季明之節其分立払無違儀女子引取可申候、四季施之義は貴殿御家を可被下候事

一御公儀様御法度之儀は不申及、貴殿御申付何事も堅為相守可申候事、自然此女子ニ付取逃・欠落等仕候ハ、其品々相改メ弁之、当人尋出し相返し可申候、若行衛相知レ不申候ハ、給金成とも相当之人代ニても貴殿御差圖次第取計可申候事、且女子年季中長病相煩候歟、亦是怪我過等不意成義ニて相果儀も有之候節ハ、我等方迄遠国之義ニ付、兎ても間ニ合不申哉ニ承知仕、右様之時々も有之候節扨も無御座、貴殿旦那寺え御法通御取置可被下候、跡ニて御法名ヲ御通達被下候共、其節一言之違交等申入間敷候事

一宗旨之儀は代々御法度之宗門ニては決て無御座候、則寺請状手形之義は請人方え取置申候間、若御入用之節ハ何時成共差出可申候事、依之為後日之食売女子奉公人請状一札入置申処仍て如件

越後国新潟古神明町

元治元年

実親母

五月

人主

か

同断 横町蔵前

親類右方後見

受人 五左衛門

同片原町式の町

口入人 栄治郎

奉公人 そ

や

越ヶ谷宿之内

大澤町

旅籠屋 吉

蔵殿

37 元治元年五月 同 頼一札

相頼申一札之事

一此そやと申女子我等実娘儲成者ニ付、越ヶ谷宿旅籠屋吉蔵方え道中旅籠屋飯売女奉公ニ差出可申候対談は行届キ候所、近所ニ受人無之候ては難召抱旨被申越、右ニ付我等当惑至極仕、貴殿方は元寄御懇意ニ付、請判相頼ミ申入候処、即刻御承知被下忝存候、然ル上は本紙請状之上右女子給金不残我等方え請取、右主人方え飯売女奉公ニ差出申候間、万端諸世話御頼申上候、且女子ニ付万一主人方ニて不奉公相勤候ハ、本紙請状面有年丈之義は貴殿御世話を以何方え成共奉公住替ニ被差出、右主人方え何れも御損毛無之候御取計可被下候、尚又女子勤中長病相煩候歟、亦是怪我過等ニて相果候義も御座候ハ、其時々我等共御成替り本紙請状面之通御取計諸世話御頼申上候、跡ニて彼是等違乱申入間敷候、依之為後日相頼一札入申処如件

越後国新潟古神明町

元治元子年

五月廿五日

実親母

人主り

か⑩

同

親類右方後見

受人

五郎右衛門⑪

越ヶ谷宿之内

大澤町

五郎

吉殿

〔付記〕

本稿は、平成十七年度専修大学研究助成（個別研究）をえた「徳川時代の家族法師に関する特殊研究Ⅱ」の成果の一部である。特記して感謝の意を表したい。